苫小牧市 博物館だより

2011.3
No.60

開館25周年記念

所蔵優品展～博物館の宝箱～

2011／2／12㊏～3／27㊐

写真は「元禄風俗図屏風(びょうぶ)」という資料です。六曲一双の紙本金地着色風俗図で、元禄時代の遊郭の華やかな風景を描いたものです。この資料は大正９年～昭和51年の間に、苫小牧駅前で営業していた老舗旅館「富士館」で使われていました。富士館には教員時代の宮沢賢治が修学旅行中に宿泊するなどの逸話もあり、当館にも多くの資料が収蔵されています。

苫小牧市博物館には、約14万点の資料を所蔵しております。同企画展では、その中から、化石、縄文時代の勾玉、昭和のテレビなど選りすぐりの逸品を紹介いたしました。

苫小牧市博物館開館25周年記念、王子製紙苫小牧工場操業100周年記念　特別展

紙をつくる　紙でつくる

本特別展は、王子製紙苫小牧工場操業100周年と当館開館25周年を記念して開催しました。写真と解説で展示の様子を振り返ります。

紙をつくる

明治時代末の製紙業・北海道への進出

日露戦争をきっかけに繁忙をきわめた製紙業界では、新会社の設立、既設会社の工場増設、設備の拡張がおこります。

なかでも北海道の豊富な森林資源に注目が集まり、戦時下の1904(明治37)年には鈴木梅四郎専務を筆頭とする王子製紙の調査団が、工場適地を求め北海道を訪れます。

鈴木梅四郎の決断・千歳と苫小牧の陳情

鈴木梅四郎専務は、千歳川とその上流にある支笏湖に注目し、水利権を獲得して水力発電をおこし新工場の動力源とすることを計画、千歳川右岸ウサクマイのナスソウ付近に発電所を新設しました。この情報を得た千歳村では、王子製紙に対して住民総代の深田猪七郎らが工場設立の請願書を提出しました。

▲ 工場設立の請願書

これに対し苫小牧村では、村長、佐伯茂治らが誘致の陳情書および工場・鉄道の敷地に要する工事使用人夫1,000人の寄附願を提出しました。

王子製紙の選択・苫小牧工場の操業

1892(明治25)年に北海道炭鉱鉄道が開通し、沿線に位置する苫小牧は原料、製品の輸送の便に優れていました。また、1900(明治33)年以降になると近距離送電の技術が進み、30km程度ならば相当大きな送電が可能となります。王子製紙は千歳川―苫小牧間の直線距離が24kmであることを判断材料として苫小牧に工場を建設することを決定しました。

▲ 王子軽便鉄道(山線)の線路

苫小牧村の発展・王子製紙の近代化産業遺産

王子製紙が苫小牧村に新工場を建設することに決めた1906(明治39)年、苫小牧村の人口はわずか3,316人でした。

ところが、建設をきっかけとして苫小牧の人口は急速に伸び、工場完成時の1910(明治43)年には戸数1,728戸、人口7,210人と著しく増加しました。

村では工場の余剰電力を活用した「苫小牧村市街電力供給事業」が認可され、念願であった市街地への送電が開始されました。

▲ 王子製紙苫小牧工場旧事務所

紙でつくる

金唐革紙・金唐紙

金唐革紙は江戸時代にヨーロッパから入ってきた「金唐革」の素材を革から和紙に転換して作られたものです。明治以降、欧米へ輸出され高級壁紙として普及しました。一時途絶えた技術を、昭和58年に上田 尚(たかし)氏が「金唐紙」として復活させ、重要文化財の復元や新しい作品づくりに取り組んでいます。

展示では紙の博物館が所蔵する金唐革紙の版木ロールのほか上田氏が作成した金唐紙屏風など20点を公開しました。

現代の紙彫刻・ペーパーワークス

第2展示室では道内在住の2人の作家に協力を依頼し、紙による立体的な作品を展示しました。今 偉正 氏は、海の神秘に魅せられ魚類をテーマとした紙の立体造型を創作しています。その技法はケント紙やティッシュペーパーをレリーフ状に細工し、精巧な表情を持つ作品に仕上げることにあります。

一方、林 啓一 氏の作品はマーメイド紙を使い表現されます。昭和の雰囲気が漂う少年少女のなにげない動きや表情を卓越した技術で仕上げる作品は、観る人をノスタルジックな世界に誘いました。

関連行事

ミュージックインミュージアム by 出光

(主催：出光興産株式会社)

展示期間中には、さまざまな関連行事を行いました。8月28日には、市民会館において「マコマイ号、空を飛ぶ」と題して、管弦楽団マジカル・サウンズによる演奏会が行われました。「空から眺めた苫小牧」をテーマに、ユニークな演奏が繰り広げられ、観客を魅了していました。

切り紙パフォーマンスショー

8月21日には「文化公園芸術祭」の一環として「KIRIGAMIST 千陽」氏による切り紙パフォーマンスが行われました。博物館の入り口にて、2回のショーとワークショップが行われました。一枚の紙から次々と生まれる美しい模様やキャラクターに拍手があがっていました。

エビをつくろう・とびだすカードをつくろう

本特別展に作品を出品された今 偉正 氏と、林 啓一 氏が講師として来館し、紙を使った工芸品や、ポップアップカード作りに挑戦しました。参加者は、大人も子供も、真っ白な紙やはさみを駆使しながら、エビや、飛び出すマンモスのカードを作成していました。完成した後は、みな非常に満足そうな顔をしていました。

企画展・ロビー展

アンドレ・ブラジリエ展

市民から寄贈になりました、南フランスの作家、アンドレ・ブラジリエのコレクション展を開催しました。馬と南ヨーロッパの風景をモチーフにした淡い色彩の絵画が基調となっており、来館者はじっくり鑑賞していました。期間中に行われた解説会にも多くの方が来館し好評を博しました。

ロビー展

各種特別展、企画展の他にも、ロビーでは定期的にミニ展示を行っています。今年度は「みんなが作ったバードセーバー展」「雛人形展」「五月人形展」「静川環壕遺跡展」などを開催しました。来年度も、季節に合わせた資料などを用いて博物館を通りかかった方々が気軽に観覧できる内容の展示を展開していく予定です。

▲みんなが作ったバードセーバー展

無料観覧日行事

5月5日 ～ 博物館からの挑戦状 ～

毎年「こどもの日」と「文化の日」の無料観覧日には、観覧者の方々が気軽に楽しめる体験行事を行っています。今年の5月5日は、展示室の中にいる学芸員と一緒に、貨幣や土器の拓本を作ったり、アンモナイトの化石クリーニング体験をしたりしました。展示室が非常ににぎやかな空間となり、家族連れで楽しむ方々の姿も多く見られました。

11月3日 ～ みて！ふれて！博物館 ～

また、文化の日は「苫小牧縄文会」と「博物館友の会」の協力のもと、博物館内の「スタンプラリー」を行いました。学芸員らが出題する数々の"難問"を、走り回りながら、楽しくクリアできるように体験型のコーナーを随所に設けました。木の実のコマ作りや展示クイズ、大昔の暮らしや石臼(うす)体験などを、すべて体験した子供には、大昔の貝やサメの歯の化石などをプレゼントしました。

幼児から大人まで楽しめる体験行事に多くの方が参加し、当日は千人以上の方々が来館しました。

体験教室・夏休み相談会

土曜体験教室

同体験教室では、学芸員が講師になって行事を展開し、大人から子供まで「身の回りにあるものを使い、短時間での製作や体験を通して、苫小牧や北海道の自然や歴史、美術を学んだり、調べたりすることの楽しさ」に触れてもらっています。

▲たわしでウサギをつくろう

今年は、たわしで干支のウサギを作って骨格からみたウサギの身体構造や、イラストなどに使われているウサギを紹介し、デフォルメしたウサギのマスコットを製作したり、屋外で身近な植物の観察と標本・記録の残し方を体験して夏休みの自由研究に役立てたり、黒曜石を使って、縄文時代

▲黒曜石で切ってみよう

に実際に使われていたナイフを復元して、いろいろな食べ物を実際に切ってみたり…と、さまざまな、体験を行いました。

学芸員から資料や体験、製作や観察についての手ほどきを受けながら、参加者たちからも、いろいろな質問が飛び交いました。「思っていた以上に楽しかった」「参加して、話を聞いて、いろいろなものの見方を覚えた」などの反応が参加した方々からありました。

昔の暮らし探検隊

▲バター作り

急速に変化する生活様式と、それをめぐる私たちの生活の中で、忘れられつつある昔の暮らしの生活スタイルがあります。「昔の暮らしを親と子と一緒に体験し、今の生活を振り返る機会を作ろう」という趣旨のもと、年4回、親子体験型の「昔の暮らし体験行事」を実施しました。今年は、バター作り、昔の玩具作り、ジュラルミンのパン焼き器で焼く

▲昭和のパン焼き器でパン焼き体験

「パン作り」などを親子で体験しました。昔の苫小牧の写真を見たり資料に触れたりして、参加者は新しい発見をしていました。

夏休みお助け学芸員～自由研究相談会

夏休みの宿題のテーマ探しや、興味を持っていることのへのアプローチの方法などを学芸員と一緒に考える「相談窓口」を、夏休み中の3日間、設置しました。期間中は「苫小牧の歴史について調べたい」「標本を作りたい」など多くの質問が寄せられました。

観察会

芸術探訪 ～「古代ローマ帝国の遺産」

毎年恒例の「芸術探訪」、今年度は当館の学芸員の解説・引率のもと、北海道立近代美術館の「古代ローマ展」を観覧しました。同美術館の石尾学芸員の解説により、ヴェスヴィオ火山の噴火により、タイムカプセルのように閉じ込められた古代ローマの遺跡から判明したさまざまな事実について事前学習を行いました。絢爛豪華な建造物や装飾品などに、ローマの成熟した文明の魅力を感じることができました。

苫小牧自然観察会～七条大滝と樽前山麓を巡る

10月初日に「七条大滝」など、苫小牧の自然をめぐる観察会を実施しました。樽前山や支笏火山の噴火により形成された滝の景観や周辺の植物を観察したり、口無沼や丸山遠見などを散策し、樽前山麓を取り囲む森林や、それらに影響を与えている山について学びました。

秋の森の中を参加者は思い思いに散策し、そこに生育している植物や虫など、いろいろな発見をしながら、散策をしていました。

郷土学習

市内3、4年生全員が毎年9月～12月まで、博物館で昔の暮らしや苫小牧の歴史について実物資料や展示を観察したり、触れたりしながら学んでいきます。写真は「石臼(うす)」を使い、昔の生活を体験する子供たちです。熱心に学習体験をしていました。

講座・講演会

市民の方を対象とした「博物館大学講座」では自然、歴史、美術など多岐に渡る分野で活躍する講師を招き、今年はアイヌ期の気候変動や、オホーツク文化の遺物から分かる人々の交易についてなどの講演が行われました。今年度の受講生は、124名と過去最多で、多くの方々が毎回熱心に出席されていました。また、7月には「市民フォーラム～美術館を考える」と題して、特別講演と今後の美術館の設立について聴講者と一緒に考えるシンポジウムが開催され、多くの方が出席されました。

勇武津資料館 通 信

生活体験教室・壁掛けをつくろう

勇武津資料館には、苫小牧市の姉妹都市、八王子市から寄贈された機織を展示･活用しています。機織サークル「ゆのみの会」が活動の一環として、会員の方々が講師を務め昔から伝わる機織の歴史や技術について普及しています。今年度は、簡単にできるコースターなどを作り、子供たちと一緒に織物の体験をしました。色とりどり織物作りに参加者は熱中していました。

ふるさと歴史講座

毎年「勇武津歴史講座」と題し、勇払にゆかりのある人物や歴史、自然史についての講話を行っています。今年は、勇武津資料館友の会の木津会長による「勇払昔語り」など、勇払の歴史や、勇払にゆかりの深い詩人、勇払海岸の地形から見られる痕跡についての講話を年4回行いました。多くの市民の方が集まり、勇払の自然史について学びました。

勇武津資料館の紹介

勇武津資料館は、平成13年4月1日開館した資料館です。江戸時代末期に勇払にあった勇武津会所の外観にちなんで造られ、勇払・弁天地区から出土した資料を展示しています。また、勇払にゆかりのある歴史、自然についての講話や体験学習、観察会などの行事を展開しています。館内では、展示解説も行っていますので、お気軽にお立ち寄りください。

友の会 通 信

博物館友の会では､｢博物館を盛り上げよう｣と、友の会会員らが主体になって「桜観察会」｢木組の技｣｢写真教室｣｢アイヌ文様の刺繍(ししゅう)体験｣などの行事を毎年数回行っています。

写真は、毎年恒例の「餅つき大会」の様子です。各家庭で餅をつく、という光景があまり見られなくなった今、餅つきの伝統とその楽しみを引き継ぐ目的のもと、毎年実施しています。

子供から大人まで、汗だくになって餅をついていました。できあがった餅は、皆でおいしくいただきました。

コラム「学芸員のひとり言」

その1「金唐革～金唐革紙～金唐紙」

金唐革紙(きんからかわし)は江戸時代にオランダから渡来した金唐革(きんからかわ)を和紙で模造したものです。版木で凸凹の模様をつけて彩色した、非常に手の込んだ装飾壁紙として知られます。もとになった金唐革は金属箔をはり、型付けと彩色をした金色に輝く装飾革で、その断片が長崎から鎖国時代の日本に持ち込まれ、次第に貴重品として珍重されました。

一方、江戸時代はじめには和紙を加工し革に似せた擬革紙(ぎかくし)が製作されています。擬革紙製の煙草入れや紙入れは、伊勢神宮の参詣みやげとして広く知られるようになります。この技術をもとに、明治初期に技術開発されたのが金唐革紙です。明治4(1871)年にウィーン万国博覧会に出品されて以来、欧米へ輸出され、宮殿や貴族の館の壁紙として好評を博しました。

国内でも明治・大正期に鹿鳴館や旧岩崎邸など洋館の壁紙を飾っています。金唐革紙は昭和30年代に一度途絶えましたが、昭和58年に上田尚氏が旧日本郵船小樽支店の復元をきっかけとして金唐紙として現代に甦らせ、文化財の修復や新しい作品づくりに取り組んでいます。 (学芸員 武田)

▲ 金唐紙「鳥とアイリス」(所蔵：金唐紙研究所)

平成23年度の行事予定

■企画展・特別展

絵画展「春のコレクション展」(4/23～6/5)
ウトナイ・ラムサール湿地登録20周年記念特別展「鳥の世界」(7/16～8/28)
企画展「縄文の史跡を巡る」(2/1～3/18)

■観察会・見学会・体験事業

芸術探訪「北京・故宮博物院展」(7/30) 「歴史遺産ツアー」(10月)
「キノコ観察会(共催胆振キノコ菌友会)」(10月)
土曜体験教室「マーブリングではがきづくり」「蜜蝋でキャンドルづくり」など

(行事の内容・日程は変更することがあります)

■「博物館クラブ」を開講します！

本年度より、苫小牧市博物館では、市内の小中学生を対象に「博物館クラブ」を開講します。

クラブ会員の児童を対象に、子ども同士で参加し、学芸員と密接にいろいろな話をしながら体験を行っていきます。

・今年度「博物館クラブ」の内容・日程予定 (計8回)

「絵の具職人になってみよう」(6月) 「いろいろな標本を作ろう」(8月)
「自分を描いてみよう」(9月) 土偶づくり(10月)
「麦でアメを作ろう」(11月) 絵馬作り(12月) シカ角で玉づくり、卒業式(1月)

苫小牧市
博物館だより

平成23年3月31日発行・第60号
編集・発行：苫小牧市博物館 〒053-0011苫小牧市末広町3丁目9－7
Tel：(0144)35－2550～2552 Fax：(0144)34－0408
URL：http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/hakubutukan/